

Q-Uを活用した学級経営のポイント

～活用するためのスキルを身に付けよう～

「Q-U」を実施する目的は、学校・学級生活への不適応や不登校、いじめ被害の高い子どもを早期に発見し、学級集団の親和性を高めるための教育実践に役立てるといえるものです。Q-Uは健康診断と同じですので、結果に対応しなければ意味がありません。アセスメント（見立て）をしてどう対応するかが大事です。使うためのスキルを身に付けて、ぜひ有効に活用してください。

ステップ1 「Q-U」のアセスメントシートを記入する

「楽しい学級・学校づくりのために 第12号」裏面（教育研究所ホームページに掲載）
「Q-U」を実施する前に教師の日常観察からみた学級の状態を把握する

ステップ2 アンケートを実施する ⇒ 集計する

実施する目的を伝えた後にアンケートを実施し、実施後すぐに集計することが肝心！

ステップ3 まずは蛍光ペンで簡単チェック 準備物：蛍光ペン2色

「いごちのよいクラスにするためのアンケート」集計表から、子どもたち一人ひとりの状態とクラス全体の状況を知る。

回答一覧表の承認得点 の1と2

被侵害得点の4と5（小学校：3と4）を蛍光ペン2色で色分けしてチェックする。

※ 蛍光ペンでチェックの多くついている子が苦戦しているの、どこで苦戦しているか一つひとつの質問内容を読んで確認する

※ 質問内容で、蛍光ペンのチェックの多い内容が学級経営で課題のある内容なので、どこに課題があるのか確認し、具体的な取り組みをする

ステップ4 データを見落とさない

ちゃんとやっていない（全て同じ番号に○をつけるなどまじめに回答してない）というデータも大事なメッセージ。

本音を書けないという心の裏を読み取り、個別面談をする。

ステップ5 見立てをするためにプロット図に情報を書き込んでいく

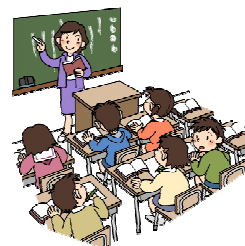
ステップ1で記入したアセスメントシートをもとに、男女の色分け、リーダーの位置やクラス内の小グループなどを記入する。

ステップ6 現状についての原因仮説とこれから取り組むべき仮説を立てる

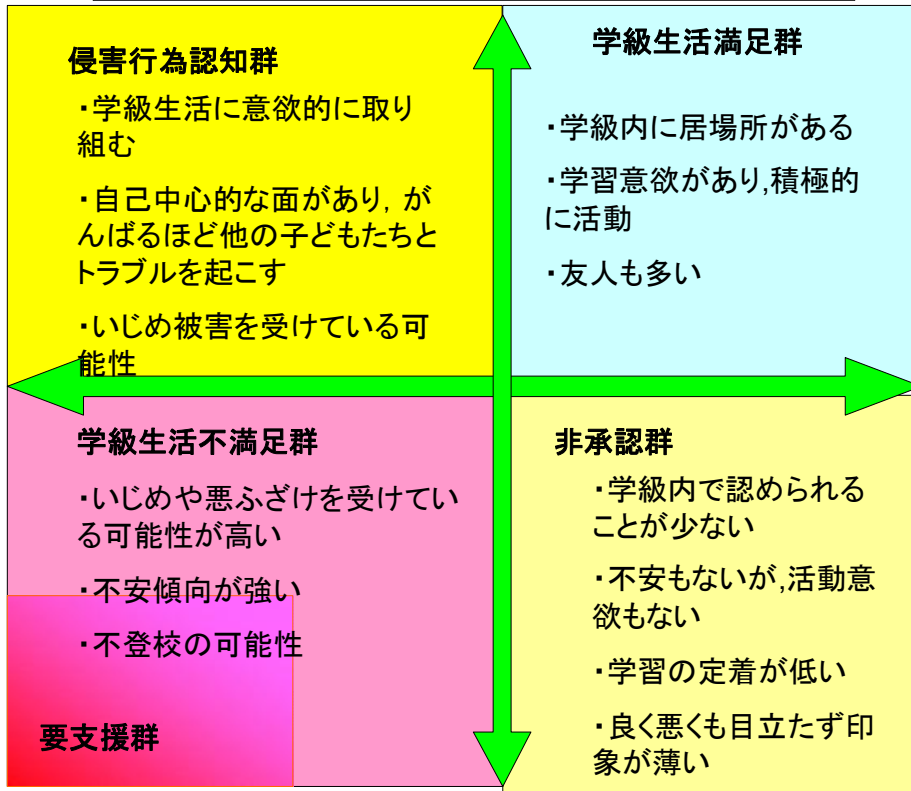
＜原因仮説＞ ～だから～なのではないか
＜取り組むべき仮説＞ ～をすれば～になるのではないか

ステップ7 仮説をもとに、具体的な対応策を考え取り組みをスタートする

裏面：4群の子どもたちの特徴と対応例を参考に。



4つの群にプロットされた児童生徒の特徴



4つの群にプロットされた児童生徒への対応のポイント

